

「コラム」

当院にある気になる樹

「気になる樹」などというと年がばれてしまいやだが、当院敷地内に根付いているとっても気になる木(樹)を2本紹介しよう。

【藤】

病院正面玄関のSL動輪の横に根付いています。小さいですが藤棚になっています。毎年4月末~5月初旬にとても上品な薄紫色の花を見せてくれます。そしてまた香りがとってもいいんです。この藤は実はその昔、当院開設者の中村裕の母である中村八重が病院の繁栄を祈願し植えてくれたものです。昭和49年の話です。はじめは現在こつ・かんせつ・リウマチセンター付近に植えられていたが、その後の病院の増改築の繰り返しにより4度も枝葉を切られ植え替えられています。そのたびにもう「だめではないか」「枯れるのではないか」と心配されましたが、現在も元気で毎年花を咲かせてくれます。現在の場所には平成12年に移され今まで10年は安住しています。とても元気で6~7月には蔓を延ばし2Fの病室の欄干に巻き付いていきます。これからも元気で花をみせてください。



【桐（実生）】

実生（みしょう）とは、種子から発芽したばかりの植物のこと。子葉や第一葉のある時期を指し、一般にいう芽生えのこと。転じて種子から発芽させて新しい植物体（苗）を得ることをいい、また広義にはそうして得られる成長した植物体をも指す、と辞書にあります。この木は桐と思われます。いつかどこからか種が飛んできて発芽したのでしょう。そこは木の生育環境としてはとても悪いところでした。そこは病院北側の倉庫があるところのコンクリート（以前は駐車場）の割れ目でした。しかしだれの助けも借りず、だれからも水を撒いてもらえないかたがけなげに成長し、いまではとても大きな桐と思われる、いや間違いない立派な桐の木に成長しました。毎年初夏にはとてもきれいな華をつけます。みなさん、一度この桐の木の根っこ（北側の倉庫の裏）に行ってみてください。すごいですよ。なんと木の幹に元の駐車場の鉄の防護網が突き刺さっているではありませんか。実生の木なので成長するにつけて鉄の防護網を巻き込んで成長していくと思われます。痛々しいというか、その生命力には驚かされます。しかもその葉が茂るところはボイラーの煙突があるので、かわいそうに白石さんが枝をのこぎりで切ってしまいます。それでもそれでも毎年成長し、きれいな華をみせてくれます。本館の階段2~3階の小窓からもみることができます。





委員会報告

医療事故防止委員会

○設置目的

- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

○委員構成

委員長 1名、副委員長 3名、看護部長、事務長、各部署長、事務部の若干名

○2010 年度の活動報告

「指さし確認を実行し、事故防止に努める」を年度目標とし、

- 1) 全ての職場で「目で確認、声だし確認、指さし確認」を実行する
- 2) 患者誤認防止対策は続行
- 3) 1人1月1インシデント報告
- 4) 転倒転落防止策の見直し

の4項目を具体的目標に掲げた。インシデントの総報告数は1866件で例年と同程度であり(部署別報告数:図1)、発生原因も「うっかり」、「思い込み」、「確認不足」が65%を占め(図2)、例年と同様であった。事故種類別でも「患者誤認」は例年と同程度の報告数であった。1)、2)について、本当に全ての職場で「目で確認、声だし確認」に加え、「指さし確認」が実行され、2009年度からの患者誤認防止対策(「患者さんに名乗っていただく」の習慣化、「リストバンドで確認」の定着化)が続行されていたのかどうか。効果のほどは少なくとも集計結果には表れていない。3)については不明だが、総報告数からみると、職員1人当たり毎月1例を超える報告をしていることになる。4)について、2月に骨折事例があったが、原因を詳細に分析し、ソフト・ハード両面から対策を検討する必要がある。

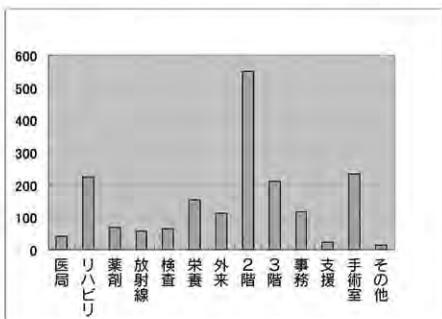


図1 2010 年度部署別インシデント報告数

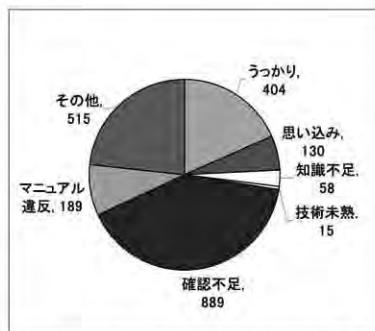


図2 2010 年度インシデント発生原因

教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 「危険予知トレーニング」研修（6/11、7/2）
- 2) シリンジポンプ操作講習（9/17）
- 3) 「食中毒予防及び食品衛生」講演（11/17）
- 4) 「医療機器保守管理研修」講演（11月19日）

○2011年度の重点目標

- 1) インシデントレポート様式の改定（用語の再定義、入力項目の変更等）
- 2) 委員の役割の明確化（即時にインシデント報告を受け、即時に対策を協議し、決定事項について部署内全職員へ周知を図ること）
- 3) 転倒転落事故の詳細な要因分析

○2010年度の委員会開催日

4/16（金）、5/13（木）、6/15（火）、7/14（水）、8/12（木）、9/14（火）、10/18（月）、11/19（金）、12/17（金）、1/21（金）、2/25（金）、3/18（金）

○まとめ

毎月委員会では、報告されたインシデントの中から重要なものを取り上げ、原因分析と対策の検討、前月からの保留案件の対応確認等を行っている。インシデントの殆どは部署内対応が可能なものであり、すでに委員が中心となり、即時に対応、対策の検討が行われている場合も多いが、委員会は1時間でも時間が足りず、予定終了時刻を過ぎてしまうこともしばしばである。このようなプロセスを経ていけば自然にレベル1以上のインシデントは減少してくるはずであるが、なかなかそうはいかないのは何故か、何が足りないのか、と考えてきた。それは（1つの回答は）、個人の意識とか意志の問題があるからだろうと結論している。いかにマニュアルが揃おうが、最終場面で実施するか否かを意識し、判断するのは個人である。医療安全の向上に資するための情報として利用するものであり、個の責任は問わない、追求しない、というインシデント報告における大前提是、ハイインリッヒの法則云々というような、あくまでもシステム学上のものである。あまりにもこのことに重点が置かれすぎ、個の問題に触れることがタブー視されている嫌いがあるよう思う。隔靴搔痒の感はこのことによるのだなど莞爾としているが、ではいかに個に働きかけるか、というとてもデリケートで大きな問題は残る。皆さんにも考えていただきたいと思う。

感染対策委員会

○設置目的

院内感染に関する事項、感染患者の状況把握と対策に関する事項

感染に対する研究教育に関する事項、感染者の統計処理、感染性廃棄物処理に関する事項

○委員会構成

委員長、副委員長、委員 18 名

○2010年度の活動報告

1. 早朝申し送り時、感染患者の報告を行い全職員へ周知させ感染意識を高める。
2. オーダリング 揲示板にて毎月の活動内容を全職員に周知する。
3. マニュアルの改訂、新規マニュアルの作成 オーダリング 文章管理 感染対策委員枠を作成
全職員が閲覧できるようにした。
4. 勉強会
 - ・病院感染対策勉強会 1 手術部位 2 血管内留置カテーテル関連感染、3 他
外部講師 9月10日 出席率 85% レポート提出にて 100%
 - ・食中毒及び食品衛生について
外部講師 11月17日 出席率 74% レポート提出にて 87%
5. 職員教育
 - ・新人職員 新人教育 スタンダードプリコーション、針刺し事故防止対策 MRS A
 - ・手洗いの実践 全職員対象 6月23日～7月9日 グリターバグにて行う
6. 院内ラウンド
 - 7月より各部署 ラウンド表を作成し第2.4水曜日行う
7. 職員感染予防対策
 - ・インフルエンザ予防接種 全職員対象
 - ・新人職員 B型ワクチンの接種
8. アウトブレイク
 - 抗生素使用状況による統計 (感染委員長)
9. MRS Aにおけるサーベランス
 - 発生状況の統計報告
10. 針刺し事故
 - 発生件数 5件 発生状況の把握と統計を出す
11. 各部署 各トイレ便座クリーナーの設置
12. 医療廃棄物処理について検討
 - ハザードマーク粘用 廃棄物を分かりやすく明記する。

○2011年度重点目標

- ・感染マニュアルを実践し院内感染の防止を図る。
- ・針刺し事故 0 を目標。

○2010年度の委員会開催日

4/16 5/13 6/15 7/14 8/12 9/14 10/18 11/11 12/9 1/18 2/8 3/8

食中毒の発生臨時会議

10/26 11/1 11/11

インフルエンザ流行臨時会議

1/20

○まとめ

感染管理の徹底を図るため実情に合わせたマニュアルの作成を行い、各部署がいつでも閲覧できるようにグループウェアに載せた。院内感染予防、一行為手洗いの実践に向け全職員を対象とした勉強会、手洗いの実演 新人教育、院内ラウンドを行った。10月 サルモネラ菌による食中毒の発生 10名 原因を調査し、臨時会議を持ちタイムリーな対処を行った。11月 外部講師を招き 食中毒について勉強会を行い 予防の周知徹底を図った。今年度 針刺し事故 5件発生があり状況把すると共に統計を出し原因追求を行い各部署に予防の徹底を図った。今後さらに職員のスタンダードプリコーションを徹底し感染対策に対する意識を高め感染防止に努め行きたい。

褥瘡・栄養対策委員会

○設置目的

院内褥創対策を討議・検討しその効果的な推進を図ることを目的とする。

○委員構成

委員長	園田（看護師）
副委員長	佐々木（理学療法士）
委員	西宮（医師） 中村（栄養士） 尾中（薬剤師）
	永沼（検査技師） 平川（看護師） 羽田野（看護師）
	武藤（看護師） 丸崎（補助看護師） 玉井（看護師）
	赤星（看護師） 高橋（補助看護師） 阿南（補助看護師）
	西水（事務） 村上（作業療法士） 古谷（作業療法士）

○2010年度の活動報告

1. 週1回褥創回診（毎週火曜日NST会議終了後）
2. 褥創患者、橋本Dr診察依頼（毎週水曜日）
3. 月1回（第2火曜日）褥創対策委員会会議
 - 1) 当院褥創発生患者の原因・分析及び治療方針
 - 2) 褥創発生患者の対策の検討
 - 3) その月の回診対象患者の経過報告
 - 4) 体圧分散器具（体交枕）の数の確認
 - 5) その他（ミニ勉強会等）
 1. 月1回体交枕の数・破損の確認（会議までに）
 2. オムニマット・Jマット・エアーマット使用患者の確認
 3. マニュアルの見直し・改訂
4. 2010年度褥創発生状況の把握 褥創発生状況

○2011年度の重点目標

- 褥創発生患者の原因・分析を行ない褥創発生予防に努める
- 1) 褥創発生報告書記入マニュアルに沿い報告書を作成
 - 2) 委員会にて原因・分析を行なう（当院褥創発生患者の原因・分析表の活用）
 - 3) 褥創予防用具の検討（マット・体交枕）

○2010年度の委員会開催日

4月13日 5月11日 6月8日 7月13日 8月10日
9月14日 10月19日 11月16日 12月21日
1月18日 2月15日 3月15日

○まとめ

2010年度より当院褥創発生患者の原因・分析を評価する項目ごとに定め、発生患者一人ずつ原因・分析を行なった。前年度より引き続きの目標である「当院発生患者原因・分析・治癒（予防対策）」を目標とし、委員会メンバー内の意識付けやNSTメンバーとの連携により情報を共有することで新たな発生患者や持ち込み患者の早期治癒を目指し予防対策を実施する事が出来た。2010年度の褥創発生者は26名、治癒した患者数は6名で治癒率は23.1%だった。発生者の内訳として持ち込み患者19名、当院発生7名であった。当院褥創発生患者うち治癒した患者数1名、褥創治癒率14.3%であり、原因・分析した結果、栄養状態不良患者が多く改善傾向ではあるが治癒までに至らなかつた。今後もNSTと情報の共有、協力し早期から予防対策を実施し当院発生者0を目指して行きたい。

サービス向上委員会

○設置目的

医療法人明野中央病院における患者サービスに関する事項、サービス向上の為の業務改善、効率化、環境美化および職員の服装マナーに関する事項を行う事を目的とする。

○委員構成

委員長 1名、副委員長 1名、委員 7名、 計 9名

○2010年度の活動報告

- ①患者満足度調査 7月実施
- ②患者待ち時間調査 12月実施
- ③職員満足度調査
- ④意見箱に寄せられた意見の検討
- ⑤接遇勉強会 1月実施

○2011年度の重点目標

環境美化、接遇・マナー、服装等マニュアルの徹底。
患者サービスのさらなる向上。

○2010年度の委員会開催日

4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、
11/19、12/17、1/21、2/18、3/18

○まとめ

昨年度は9月末に機能評価があり、職員の接遇・マナー・服装の乱れなどがとても大きく改善されました。病院内の環境美化の面においても綺麗で清潔な状態に保つことができていると思います。今年度もそれらを継続し、患者さんにより満足を頂けるようにどんな小さな事からでも気を配って、サービスの向上に努めてきたいと考えています。

教育委員会

○設置目的

教育委員会は当院における医療事故防止教育、感染症対策教育、倫理教育及び職員の質向上を目指し、図書委員会は図書室を広く職員が利用し、知識と技能の向上に役立てると共に、職員間のコミュニティの場としての環境を整える。

○委員構成

委員長一名、副委員長一名、委員 16 名

○2010 年度活動報告

5月 7日	救命救急研修会
6月 11日	医療安全管理研修会
7月 24日	院内研究発表会
9月 19日	院内感染管理研修会
10月 29日	NST 研修会
11月 17日	食品衛生管理研修会
11月 19日	医療機器保守管理研修会
1月 28日	接遇、個人情報保護研修会
2月 24日	医療倫理研修会

図書委員会としては、図書室の環境整備とインターネットによる文献検索のマニュアルを整備し直し職員が利用し易い環境を整えた。また、図書室の利用方法、新規図書購入手順など院内 LANへアップし、全職員がいつでも方法を閲覧できるよう環境整備をおこなった。

○2011 年度重点目標

教育部門は個人のスキルアップを目指した、全職種参加可能な教育や研修。図書部門は今後とも、図書室の環境整備と利用しやすい図書室運営に努めていく

○2011 年度教育・図書委員会開催日

毎月第一金曜日

○まとめ

2010 年度の目標は職員のリスクマネジメント能力の開発、研修であった。教育委員会勉強会へ参加を呼びかけ、参加できなかった職員へ後日レポートの提出、ビデオの上映など参加できなかった職員への対応も行なってつきた。図書委員会は教育委員会と合併し『教育・図書委員会』となった。今後も職員の様々な研究活動をサポートし、職員間のコミュニティスペースの場として環境整備に努める。

NST (栄養サポートチーム)

○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取(投与)方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

○委員構成

医師(西宮) 管理栄養士(中村) 栄養士(小手川) 薬剤師(尾中) 言語聴覚士(松本)

看護師(園田 羽田野 赤星 玉井) 理学療法士(岩尾)

○2010年度の活動報告

- ・毎週火曜日 14:00～ 対象者のカンファレンス及び回診

(対象者) NST 介入者 SGA 評価(B.C)患者 摂食嚥下障害対象者 褥瘡患者 アルブミン値 3.0

未満の者 前回様子見患者 食事摂取量低下患者 大幅な体重減少患者

*NST 介入延べ患者数 986名／年 介入患者数 228名／年

*補助食品(高カロリージュース・ゼリー) 摂取患者数 24名／年 ・・83%が改善傾向にあった

○2011年度の重点目標

- ・対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の栄養状態をアップし早期退院や社会復帰を助ける
- ・対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるよう^うに多職種で患者をみる

○2010年度の委員会の開催

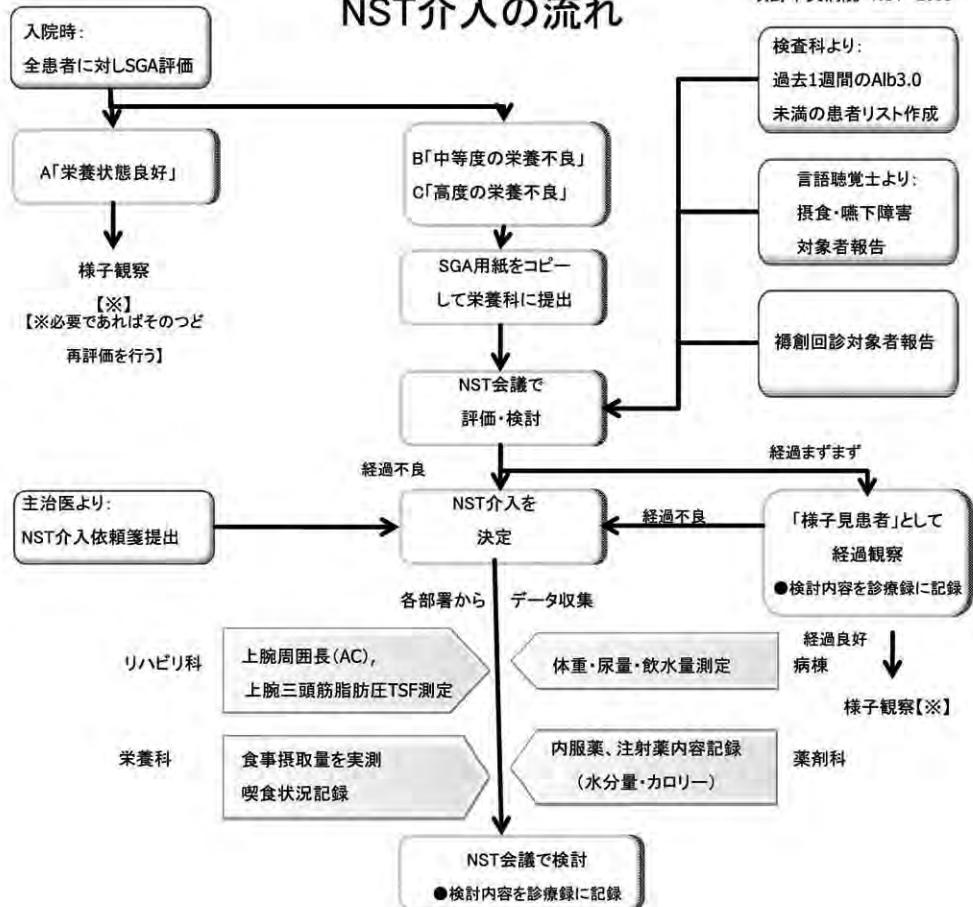
4/27 5/25 6/29 7/27 8/31 9/30 10/26 11/30 12/28 1/25 2/22 3/29

○まとめ

入院時全患者に対し早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態不良に対して早期にNSTが介入し栄養状態の改善に努めたいと思います。

NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



NST会議

毎週火曜日 14:00~

NSTメンバー 医師

病棟看護師

管理栄養士

健康運動指導士

言語聴覚士

薬剤師

対象 ①NST介入患者

②様子見の患者

③摂食・嚥下障害対象者

④SGA評価B、Cの患者

⑤褥創回診対象者

⑥過去1週間のAlb3.0未満の患者

糖尿病相談会

○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解・普及を高める。

○委員構成

医師（木下院長） 管理栄養士（中村） 薬剤師（尾中） 看護師（工藤）（久保）（玉井）
理学療法士（紺野）（安部）

○2010年度の活動報告

○第23回糖尿病相談会 テーマ 「今年も帰ってきました！今年はカツ丼！！」

開催日：2010年6月12日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：9名

開催目的：ふだん敬遠されている丼物の糖尿食の実食会を開催し、味付けやカツの作り方を工夫することで低カロリーでも、美味しくかつボリューム感のある食事にすることができる事を体験してもらうと同時に食事療法への理解を高める。

○第24回糖尿病相談会 テーマ 「あなたのあしは大丈夫？？」

開催日：2010年11月6日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：9名

開催目的：糖尿病の合併症について理解し、血糖コントロールの正常化を目指す。

実際にA B I検査を実施しその結果を確認しながら、足の手入れの仕方を学び、日頃の生活の中で実践してもらう。

○第25回糖尿病相談会 テーマ 「今日から出来る！ 糖尿病の食事療法」

開催日：2011年3月5日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：10名

開催目的：糖尿病の食事療法の基礎について再度確認すると共に、前向きな行動変容を目指す。

○クリニカルバスの実施 0名

○2011年度の重点目標

○糖尿病に対する基礎知識の理解普及

○相談会の年3回以上の開催

○2010年度の委員会開催日

4/26 5/10 5/17 6/7 6/21 7/5 8/9 10/4 10/18 11/15
12/6 1/17 2/7 2/25

○まとめ

2010年度は糖尿病の教育入院は数件あったが糖尿病教育入院のバスの使用はなかった。

2011年度は糖尿病相談会の開催を年3回実施を目標にし、地域の糖尿病患者さんの治療に支援したいと思います。

親和会（厚生会）

○スタッフ構成（2010年4月）

会長、副会長、会計、会計監査

委員 地域連携室1名、リハビリ3名、看護部4名、薬剤科1名、診療情報管理室1名、医事課1名

○親和会の目的

本会は会員の親睦と福祉の向上を計ると共に 明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

○役員改選

役員の任期は毎年4月より翌年3月末までの1年間。

○総会

総会は通常総会と臨時総会の2種類とする。

通常総会は毎年4月に開催し、会長が招集しなければならない。

臨時総会は会長が必要を認めたとき、又は、会員の3分の1以上の要求があったとき随時開催する。

議長は会員の選出で決定する。

総会は会員の過半数をもって成立する。但し、委任状出席を認めるものとする。

○会計

①収入 1. 会費 2. 寄付金 3. その他 必要に応じ臨時会費を徴収することもあり得る。

②支出 1. 旅行 2. レクリエーション 3. 忘年会 4. 慶弔見舞金 5. その他

③会計年度は 每年4月1日より翌年3月31日までとする。

④会計報告は 每年4月の総会で行う。

○2010年度活動報告

①ボーリング大会を実施

実施日：2010年6月25日

開催場所：OBS ボール

参加人数：63名

②忘年会を実施

実施日：2010年12月14日

開催場所：全日空オアシスタワー

参加人数：143名

ニュースリリース

看護週間の行事
▽ 明野中央病院（大分市・木下昭生院長）で、明野中学校3年生5人組んだ。一日看護師体験に取り組んだ。木下院長から委嘱状とお書きを授けた後、脈拍や血圧測定、人工呼吸や心臓マッサージなどを体験。入院患者の足浴を介助しながら、「木下先生ですか」「痛くないですか」と声を掛けている。参加した3名は、「看護師は多く、大切な仕事だと感じた。貴重な経験になった」と話した。

看護週間の行事



5月 9日
大分合同新聞



6月 1日

大分団地新聞

看護週間の行事
▽ 明野中央病院（大分市・木下昭生院長）で、明野中学校3年生5人が8日、「一日看護師体験」に取り組んだ。木下院長から委嘱状とお書きを授けた後、脈拍や血圧測定、人工呼吸や心臓マッサージなどを体験。入院患者の足浴を介助しながら、「木下先生ですか」「痛くないですか」と声を掛けている。参加した3名は、「看護師は多く、大切な仕事だと感じた。貴重な経験になった」と話した。

看護の心を学ぼう
明野中央病院一日看護師体験
5月9日（日）、明野 どんななところか、体操を行なった。生徒 中央病院にて「一日看護週間」が行われ、今年は明野中学校3年生の男女5名が参加した。委嘱式にあたり、明野中央病院木下昭生院長から「病院とはなにか」についての話を聞かれた。この後、2箇のウップで、最初に病棟見学が行なわれた。（左）では、いつた。このでは、病院で血液の観察を行なった。その後、器具や機材、ドックキへ移動し明の説明の他、地域に暮らすボランティアの会（会長、麻酔装置の説明を受けた後、問診や手術用鏡を使つて行ない入院ガードニアボランブリカの種を取り、患者さん、ティアの感覚を行ない、す体験を行なった。そのような患者達も一緒にいた。どのよのな、心遣いを、て苗を植えたり、この日の昼食は、病院で出されている。般食である。食事の従事者は、管理栄養士にふれ、ランチから病院での食事について説明を受けた。実際に食べてみのスタッフの仕事を見てきた。見学につながる。非常に美味しい食事であった。また、ようだ。

明野中央病院木下昭生院長より委嘱状とタスキを受取った後、入院患者さんの足を丁寧に洗いながらお湯加減はどうですかまた痛くはないですかと優しく声を掛けたり、血圧測定や心臓マッサージ等の体験学習を行なった。

明野中央病院 一日看護体験学習

6月 15日
明野タイムズ



内林野辰光 岩井昇 橋爪美有 三川みつき 三宮礼 茹内小百合

大東中学生 明野中央病院へ職場体験学習



8月1日
大分団地新聞

◆病院で中学生職場体験

佐藤彩子さん(14)

大分市立明野中(同市明野南3)の2年生

301人による職場体験が6日、始まりました。働くことの意義や将来について考えてほしいと、校区内の事業所の協力で毎年実施している。

8月15日
明野タイムズ

大東中学二年生六名は、明野中央病院で七月十三日職場体験学習を行った。職

士を目指して頑張りたいと話していた。

院長から病院内の説明や看護士さんから注意事項の説明の後、病室を回り患者さんの手足を拭いたり食事の準備をしたり看護士さん達の大変さを学んでいた。また、いろんな病気や年齢によって注射針の大きさの違い等の説明を聞き、看護士さん達は何時も患者さんの為にいろんな事を考えながら働いている事が良くわかった。明日の体験学習を参考に将来看護士を目指して頑張りたいと話していた。

自主防災訓練



1月15日
明野タイムズ

このうち、明野中央病院(同市明野東2)では、4人が看護師の説明を受けながら聴診器、血圧計、車椅子などの使い方を学んだ。

田中理知

同病院での学習は8日まで。安倍敬治総務課長(46)は「看護師不足なので病院関係の仕事を目指してくれた

時の血止には、新聞紙、段ボール、雑誌等を活用し、早急に対応する事をお勧めします。また、避難食の炊出を食べたり、グラウンドゴルフをしながら有意義な一日を過ごしていました。

明野中央病院(木下院長)
では、ボランティアの会志



明野中央病院クリスマス会

1月15日
明野タイムズ

水会長の主催で、十二月四日クリスマス会を行った。クリスマス会では、明野ひよつど同好会の方々のフラダンスや、小坂元綾菜ちゃんの野崎小唄の素晴らしい舞と、涙そうそうの民踊や、子ども達も参加した。里谷事務長は今年もボランティアの方々のご協力で楽しいクリスマス会が盛大に開催された事が出来ましたとお礼の挨拶をしていた。

1月16日
大分合同新聞



四重奏

◇大分市明野東の明野中央病院(木下昭生院長)は15日、同病院で、「新春寄席」を開いた。笑いを通して元気になってもらおうと企画し、

今年で3回目。入院患者や近くの住民など約100人が集まつた。(写真)

◇県南落語組合大分支部(中山和充支部長)が集まつた人た

ンバー3人が特設の高座に上がり、豊かな表情と二ミカルな動きで「反対陣」「宗論」「親の顔」を披露。集まつた人た

ちに、身近な出来事について話し掛ける場面もあり、会場には笑いや拍手が響いた。

◇昨年末から入院している同市明治の無職上妻勝武さん(67)は、「おなかの底から笑えて、気持ちよかつた。いい1年になりました」と満足そうに話した。

「おなかの底から笑えて、気持ちよかつた。いい1年になりました」と満足そうに話した。

新入職員 1年間を振り返って

○診療情報管理室 安部 智美

一年働いてきましたが、最初はどんな仕事かもよく分からなくて本当にできるのか不安でした。今も上手くできない事が多々ありますが、それでも一年間働いていろいろな事を経験したり教わって最初よりは成長できているのではないかと思います。また、知らない言葉や物が多く戸惑いました。現在も指示を理解できずにアタフタしてしまう事があります。分からぬ言葉はメモをして後で辞書を引いたりインターネットや本も積極的に見て学習し少しづつでも知識を増やすなど日頃から努力してきちんと理解し落ち着いて処理ができるようにならなければならないと思います。それから診断書や紹介状、お返事などは患者さんが待っていると焦ってしまったり、MRIの予約や診断書等の処理がたまると気持ちが焦り急いで処理をすると間違いが起こりやすくなるので、優先順位を考えて落ち着いて処理し忙しくても二重三重確認を忘れないように心がけています。しかし、患者さんを待たせてしまったりすることもあるので、落ち着いて丁寧に処理スピードアップも心がけていきたいと思います。午後からは診療情報管理室で、医師サマリー等を作成する際に分からぬ言葉を佐藤課長に教わって毎日凄く勉強になります。一年間いろんな事を教わってきて最初よりは知識が増えたと思います。まだまだできない事が沢山あったりなかなか気が回らない事が多いので、これからも毎日毎日一歩ずつでも成長し一つでもできる事を増やして、きちんとクラークの仕事ができるようになるよう努力したいと思います。

○診療情報管理室 日高 菜津美

医療クラークとして働き始めて一年が経つのは本当に早く、あっという間に時間が過ぎていきました。入社前日は緊張のあまり夜眠れなかったのをよく覚えています。実際に外来クラークとして働くにあたって何も分からぬ私に、先生や看護師の皆さんが小さな事から一つずつ丁寧に指導をして下さり、緊張していた心も徐々にはぐれ、集中して業務に取り組む事ができました。また、私が失敗をしてしまった時には同じ失敗を繰り返さないよう原因と改善策と一緒に話し合い、悩みや不安な事がある時には相談にも乗って下さり、皆さんのおかげで少しづつ成長する事ができたと思います。恵まれた環境の中で随分と仕事に慣れる事が出来ましたが、まだ分からぬ事や勉強すべき事が沢山あります。これからも常に向上心を持って仕事に取り組み、些細な事にも気を配る事で診療が円滑に行えるよう心遣いを忘れずに精一杯努めていきたいと思います。

○リハビリテーション科 柳井 弘貴

昨年度は、初めて社会に出てリハビリの仕事を行なうという不安と緊張の1年でした。入社当時より、初めて働くという緊張や、仕事の多さからミスなど失敗が多くあり先輩方にたくさんのご迷惑をおかけしました。しかし、迷惑をかけてもその度助けてもらい助言をもらうことで仕事を徐々に覚えることができきました。また実際に働く事で、学校で学んだだけの知識ばかりでなく、日々の勉強の大切さもこの1年間で感じました。最初の頃は、患者に対しどのようなリハビリを行ってよいのか、これを行って本当に成果が出るのかなど、とまどいや不安もありました。しかし、先輩方のリハビリを見学させてもらうことや、相談する事で少しづつ自分なりのリハビリを行えるようになってきました。昨年度の目標は仕事に慣れることだったので、今年はさらなる勉学に励み、質の高いリハビリテーションを提供できるよう仕事に励んでいきたいと思います。

○リハビリテーション科 安部 和弥

社会に初めて出た私は、患者さんとの接し方、スタッフ間での接し方など分からぬ事だらけで上長や他部署の方々に多くの迷惑をかけてきたと思います。その中でも自分なりに目標を持ち、努力できた1年であったと思います。基本的な報告・連絡・相談を心がけ、患者さんを危険に会わせないよう注意を払いながらリハビリテーションに取り組みました。またリハビリテーションの仕事以外にも糖尿病相談会運営委員会にも参加し、糖尿病の患者さんが自分たちと同じようなものを食べるためにはどのような工夫をすれば良いのかなど話し合う機会が持てました。あまり積極的ではなかったが他部署のスタッフとのかかわりが持てて勉強になりました。この1年間はわからないことが多く、常に周りや他のスタッフに迷惑をかけてしまったので、今度からは自分が周りをサポートしていくように努力していきたいと考えています。

○リハビリテーション科 山崎 翔太

入職して一年が経ち、患者さんをはじめ多くのスタッフと関わることで本当に多くの経験をさせていただきました。入職当初は期待よりも緊張と不安の連続で、業務になかなかなれず、数々の失敗をしてしまい、大変迷惑をかけたと思います。しかし、先輩方やスタッフの方々の指導やアドバイスがあり、入職当初より成長できたのではないかと思います。一年間臨床を経験して、改めてこの仕事の厳しさや、作業療法士としての責任感をもって患者さんと接することなど、学生時代に経験した臨床実習と臨床の違いを感じました。その中で、知識不足や経験不足を強く感じることが多かったです。今後は昨年より効果的なリハビリテーションが提供できるよう、より深い知識、技術の習得を目指し、また積極的に勉強会に参加し、作業療法士の先輩方の話を聞き、自分のリハビリテーションに生かしていくよう精進していきたいと考えています。

○放射線科 西田 光希

昨年度から新社会人として初めて職に就きましたが、この1年間は『仕事をする』という事の大変さが身に染みました。入った当初は患者さんの多さに驚き、「これからここで頑張って立派な技師になろう」という期待が半分、「はたして自分はこれからちゃんと仕事ができるようになるのだろうか」という不安が半分でした。しかし、放射線科の先輩方の丁寧なご指導や、先生方・他の部署の方々がフォローして下さるおかげでこの1年頑張り通す事ができました。また、多くの患者さんと接する事でコミュニケーションのとり方や意思の疎通など、これから仕事をしていく上で重要な要素が身についたと思います。今1年を振り返ってみると、少し大変でしたがとても内容の濃い充実した1年だったように感じます。これからも向上心を忘れず日々勉強し、患者さんに常に笑顔で接することで検査に対する『不安』を『安心』に変えていけたらと考えています。

○2階病棟 野村 歩未

入社したての頃は仕事・職員・病院になかなか慣れず大変でしたが、師長をはじめ指導看護師のみなさんが優しくご指導、見守っていただきたお陰もあり、徐々に仕事にも職員の方とも打ち解けるようになったと思います。朝の回診のスピードについて行けず、処置にしても医師の補助としてつくのが初めてで、緊張しあたふたする場面が多々ありましたが、先輩看護師のフォローにて乗り越えることができました。学生の頃とは違う環境の中で、仕事の深さや責任の重さ、患者さんに対する接し方など身を持って学ぶ事ができ、看護師という仕事の大変さを実感しました。中学生のころから憧れていた看護師の仕事に就けて、辛い事や自分の不甲斐なさに泣いた事もありましたが、患者さんと関わって些細な事で「ありがとう」と感謝の気持ちを言われたり、先輩看護師に話を聞いてもらいアドバイスをいただき励ましてくれた事で、また新たに頑張ろうという気持ちになり仕事に打ち込めることができました。今では、一人で処置につけることも増え看護師としての自覚が芽生え出してきたかなと思えるようになりました。

入職20年を振り返って

○2階病棟 長島 みゆき

明野中央病院で社会人としてスタートし、あっという間に20年が経過しました。この20年で病院の存在は大きく変わりました。地域に貢献し患者さんから選ばれて、必要とされている病院であるということです。その変化を自分自身も感じながら勤めてきたことを嬉しく思っています。また、新人の頃とは違う責任と重圧感があるのも事実です。様々な思いで日々が流れていますが、病院が地域に貢献し患者さんのために変化し続けているということは、自分自身もその変化に対応し止まるのではなく変化し続けていかなければならないと私は思います。

この20年間、看護師としてたくさんの患者さんと知り合いがわってきました。その中でも一番嬉しく、これからも頑張ろうと力をもらえる時があります。それは明野中央病院を長年かかりつけとして来院される患者さんから、親しげに声をかけてくれて、頑張ってねと言ってもらえる時です。だからこれからもそう言ってもらえるように信頼され喜んでもらえる病棟・病院作りに努めていきたいです。

○手術室 工藤 玲子

明野中央病院に入職して准看学生の頃を入れると23年になります。当時は、若葉寮というちょっと古い寮がありそこで、希望より不安の大きかった私は、先輩方に仕事の事や、勉強を教えてもらい、また、教えてもらった事を後輩へ伝え6～7年くらいでしたが住めば都でとても楽しい寮生活だった事を思い出します。23才くらいの時に、初めて手術室に入りましたが、当時は今のような腰や、人工物の手術などではなく、小さい手術でしたがなかなか器械を覚えられず、先生方や、先輩に迷惑を掛けながらやっていました。その後現在の手術室ができるということで、大分中村病院の手術室へ1ヶ月間研修にいくことになり緊張と不安でいっぱいでしたが、学んだことは多く自信が持てたことで、今こうして手術室でがんばれているのだと思います。今年は、先生方や看護部長やスタッフに迷惑を掛けながらも、支えられ、また、励まされ国家試験に合格することができました。23年間は長いようであつという間でした。先輩や、後輩、他部署の方、患者さん等沢山の出会いがありその出会いにより多くのことを学ぶことができたと思います。まだまだ学ぶことはあると思いますが、明野中央病院で経験させてもらったことに感謝し、今後にいかしこれからも頑張っていきたいと思います。

入職10年を振り返って

○2階病棟 小間 幸恵

私が、この病院に入職して10年。看護師としても10年になりますが、沢山の人に支えられた10年だったと思います。入社した当時18才だった私は、社会人としての経験もなかったため、最低限のルールすら知りませんでした。同期もベテランの看護師さんばかりで、当時は今のように詳しいマニュアルもなかつたため暗記していくことも多く、業務だけでなく、患者さんに対してもどういうふうに言葉をかけていいか分からず、ナースコールを見つめては鳴らないように心の中で念じてみたり、毎日、緊張と私には向いてないんじゃないのかという不安と看護師という仕事の責任の重さから、食事も喉を通らない時期もありました。そのうち環境にもなれ、経験とともに自分で任される仕事も増えていき自分の求められる段階が上がる度、プレッシャーや自分の実力のなさに泣いたこともありますが、その度に先生方や先輩方、患者さんの言葉に励まされ「辛い」と思っていたことが「楽しい」に変わり、責任の重さが「苦しい」から「やりがい」に思えるようになりました。

「初心忘るべからず」とありますが、これからもこの看護師の仕事に誇りをもって、スタッフの方、患者さんに対してもいつも感謝と敬意の気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

○3階病棟 安部 由紀子

10年前の冬、子どもがまだ小さく育児に奮闘しているとき「今、手伝ってくれる人を探している、また一緒に働かない?」という1本の電話がきっかけで明野中央病院に再び勤めることになりました。私自身子どもの頃から明野に住んでおり、馴染み深いこの病院に再び勤めることができるご縁に感謝したことを思い出します。ブランクがあったので再就職に対する不安と子育てと仕事の両立ができるのか心配でしたが、同僚の先輩方から励ましていただき、ここまで頑張ってこれたことに感謝しています。

約10年間勤めていた2階病棟から、昨年の11月に3階病棟に配属になり半年が経ちました。リハビリ病棟での勤務経験がなく初めてでしたが、リハビリをし、どんどん回復して笑顔で退院する患者さんの姿にやりがいを感じています。今後は、これまでに経験したこと仕事を活かし、初心を忘れることなく頑張っていこうと思っています。

○3階病棟 宮川 博子

私の職歴で一番長く勤め、人生勉強になった職場です。あることがきっかけでパートバンクに行き募集を目にしました。自宅に近いことや、やりがいのある仕事だと思い面接を受け採用して頂くことができました。3~4年間は病欠する事もなく元気に仕事も必死に覚え、明るい挨拶を心掛け頑張ってきました。また、長く勤めると人間関係や患者さんからの苦情などで悩み、何度も辞めたいと思ったことがあります。しかし、その都度反省し、その事が私を成長させてもらっているのだと自分に言い聞かせ、一つ一つ乗り越えてきました。暗く長いトンネルから脱出したように、やっと今では心に光が差し込んできた気持ちです。振り返ってみれば長いようで短かった10年、これからもスタッフの皆さんと仲良く、患者さんにも信頼、尊敬される自分にと一層の努力をしていく決意です。

○外来 山瀬 敦子

昔を振り返ると、いろんな思い出がよみがえります。夢と理想ばかりが強く、主張していました。そして、幾度となくまわりのスタッフの方とぶつかり、それでも意地を張ってまたごめんなさいと謝ることを知らず、そうするうちにスタッフの方が去っていくなか落ち込んだり、患者さんから励まされ勇気をもらったりしました。だんだん月日が流れていくにつれ人の姿を見て自分の愚かさに気づきました。人は頭を下げる事が大事。患者さんとかかわっていく中でいろんなトラブルがあります。でも患者さんの立場になって考えてみれば、確かに思う事があります。間違っているのではと思うこともありますが、まず患者さんの話を聞き気持ちになって立場を共有する事、そうすることで患者さんも自分の気持ちを分かってくれたと少しほっとします。一度受け入れることにより、患者さんもこちらの事を考える余裕ができます。スタッフにしてもそうです。若い頃は特にそうですが、幾多の失敗を繰り返し、涙を流し大人になっていきます。そして年を重ねた今、人間は頭を下げる事が大事だと。物事が分かったつもりでも、頭を下げていく。人から学ぶ。いくつになんでも私たちはその姿を、若い人たちに見せていくことが使命なのではないかと思います。私の好きな言葉です。『実るほど頭を垂れる稲穂かな』いつも胸に刻み生きていきたい、そう思っています。

○放射線科 池田 義弘

早いもので入職して10年の月日が経ちました。2000年4月、はじめて病院の中に職員として入り、始業前の朝礼に出たときの緊張感は今でも覚えています。朝礼は当時4階リハビリテーション訓練室で行われ、窓から見えた建設途中のビッグアイ（現大分銀行ドーム）は、今でも印象に残っています。入職時のスピーチ内容は忘れてしましましたが、聞いたところではずいぶん頼りないような内容だったようです。新人時代はとにかく精一杯頑張って、早く先輩方に追いつき戦力になるために要領が悪いなりにも必死でがんばっていたと思いません。迷惑をかけた関係各所には大変お世話になりました。

気がつけば10年経ち、職場には私より若い人がずいぶん多くなってきました。今まで聞く立場でしたが、逆に聞かれる立場になりつつあります。私自身もまだまだ勉強不足なところも多々ありますので、自身に目標を持ちこれからも頑張っていこうと思います。

○診療情報管理室 佐藤 伸一

私が入職したのは13年前で病院は改築工事を行っていました。最初は准看護学生として何もわからないまま先輩方に色々と教えてもらいながら業務をしていた覚えがあります。2階病棟・手術室・外来・内視鏡室と色々な部署を経験させてもらい、大きな転機が訪れました。それは、「診療情報管理室の立ち上げ」でした。最初は何から手をつけてよいのかもわからず手探り状態でしたが、診療情報管理士の資格も取得し無事に立ち上げることができました。また、その後には院内IT化計画が始まり、グループウェア・オーダリングシステム・PACS等の導入を責任者として行うことができました。

最初は看護師を目指して入職しましたが、思わず所で別の道ができる進むことができました。管理室の立ち上げやシステム導入はそれまでの経験があったからこそできることではないかと思います。すべて私の貴重な財産となっています。また、そのような経験や機会を与えてくれた病院とスタッフの方々に感謝致します。現在も内視鏡や診療録管理やシステム管理と色々な業務をやっておりますが、初心を忘れる事なく日々の業務に取り組みたいと思います。

入職5年振り返って

○事務長 里谷 和幸

平成18年4月に当院に採用され、早いもので5年が過ぎました。入職当時の課題として、回復期リハビリテーション病棟の開設が思い出されます。回復期リハビリテーション病棟は平成12年に制度化したリハビリテーションに特化した病棟で、当時大分市内にはまだ少なく、明野地区にはありませんでした。当院の3階病棟をこのリハビリ専門病棟とする方針が決まり、運営方法や収支試算、他施設の見学や連携病院への訪問などの準備を行い、平成19年2月に開設しました。また、昨年は病院機能評価の更新年にあたり、9月の受審に向けその準備に職員の総力を結集したことは深い感慨をもって思い出されます。勤務が終わってからも会議室で作業に追われる職員の人数を数え、夜のコンビニに夜食の買出しに走りました。その前年には、森麻酔科部長と藤川こつ・かんせつ・リウマチセンター長の2名の偉大な指導者を迎えることができました。更に、昨年は大分東明高校看護科より1名の新卒看護師が看護師人生のスタートに当院を選んでくれました。今後とも、病院理念に共鳴する志の高い医療人が集まり、地域医療に貢献できる病院であり続けられるよう努力を重ねていきたいと思います。

○リハビリテーション科 河野 陽子

入職してから早くも5年が過ぎました。1年目、訳も分からず、先輩たちについて行くので精一杯。2年目、少し余裕ができたけど患者さんをみることで精一杯。3年目、新しい病棟のシステムを稼動していくことに精一杯。4年目、やっと後輩に目が行くようになって自分の頼りなさに情けなく感じた年。5年目、何とか後輩に指示できるくらい自分に自信がついてきた年。こんな自分で患者さんにもスタッフにも何ができるのかと毎日毎日自問自答してきた日々でした。患者さんに負けないように努力をすることは惜しまないように心掛けてきました。今だに何ができるかわからないですが、ただただ皆の笑顔が戻るよう作れるようにしていきたいとの気持ちは今でも変わらないです。先輩より最初に教えられた「患者さんを笑顔に」の精神は受け継いで後輩たちとともにこれからも頑張っていきたいと思っています。

○看護部 吉岡 良子

入職当時、まず驚いた事は1日の入退院患者さんの多さでした。当院を選んだ理由を患者さんに聞くと、「近所の人がこの先生は腕がいいと言っていたから」と殆んど口コミでした。そんな病院で働いていることが誇りでした。ここで働くためには自分自身も知識と技術を身に着けなければと思い正看を目指しました。病院機能評価も経験し病院もこれまで以上に進化していく中、これまで学んできた事、これまでの経験をいかして安心、信頼される看護師を目指し、患者さんはもちろん家族からも入院生活に満足して退院してもらえるように日々精進していきたいと思います。

○看護助手 郷司 佳代

五年間を振り返り思うこと・・・私がこの病院で働き一番変わった事は、おじいちゃんおばあちゃんと話しをする事がとても好きになりました。しかし、この仕事に就く以前はお年寄りと話しをする事が苦手でした。入社当初は、未経験という事もあり、人との関わりや医療の専門的な知識などわからない事だらけで、この仕事を続けられるか不安になる事もありました。

働き始め3年目の時、ある患者さんが退院した際、看護助手さんへと手紙を貰いました。その中に「あなた達は縁の下の力持ち」と書いてくれました。漠然と仕事をしていた私でしたが、その手紙に感動し、とても励みになりました。今は一緒に働く優しい助手さんや尊敬する看護師さん、頼りになる師長さんを見習い、常に優しさを忘れず自分のできる事を一生懸命していきたいと思います。



○看護部 石井 千恵

平成 17 年 6 月に入社し、7 年目を迎えるとしています。以前、救急病院に所属していたとはいえ産婦人科の経験が長く、入社当時は不安でいっぱいでした。経験のない処置・検査も多く、先生方にもたくさん迷惑をかけました。そんな中、スタッフの方々にご指導いただきながら、少しずつですがスタッフの一員になれた気がします。めまぐるしい毎日の業務の中、患者さんから教えられた事もたくさんあります。自分の力のなさから、受け持ち患者さんへの思いが伝わらないまま退院日を迎ってしまったこと。労いや、感謝の言葉を頂き看護師である喜びを感じたこと。患者さんに成長させて頂いたと思っています。

私事では、この 6 年間に 2 人の子供を出産し親となり、看護師としてだけでなく人として人間性を高める事の重要性も身にしみて感じようになりました。復帰して外来勤務となり、慣れない事ばかりで精いっぱいの毎日ですが、一日も早く業務を覚え、患者さんに信頼される看護師になりたいと思います。

○3 階病棟 畠 理美

明野中央病院に入職して 5 年がたちました。実は 2 回目になります。約 10 年前のまだ独身だったころに勤務させていただき、とてもお世話になったのでまた明野中央病院で働きたいと思い、帰ってきました。入職初日に木下院長先生や中村副院長先生に温かい言葉で迎えていただいたことを昨日のことのように思い出します。

また、この 5 年の間に 2 人目の子供を出産し、育児休暇をいただきました。育児休暇からの復帰後は回復期リハビリテーション病棟へ異動になり、はじめは回復期リハビリテーション病棟のナースとしての役割がわからずに戸惑いましたが、今では多職種と同じ目標に向かって、患者さんのために関われるチーム医療にやりがいを感じています。昨年は、院内研究発表や大分県病院学会での発表という貴重な経験もさせていただきました。これからも向上心を持ち、仕事と育児を両立させて頑張っていこうと思います。

1日看護師体験

毎年5月に明野中学校の生徒たちが「1日看護師体験」にやってきます。医師や看護師の仕事を体験して、生徒たちはどのような感想をもったでしょうか。

☆看護師体験で特に興味を持ったこと、楽しかったことはなんですか。

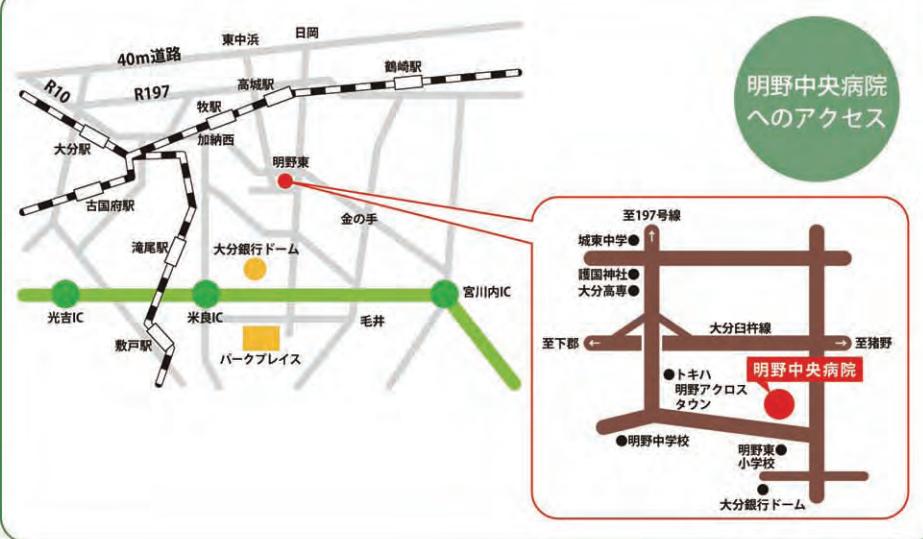
- ・手術室では野菜を使って実際に手術の機械を体験してすごく貴重な経験になりました。
- ・手術で使う道具を使うことができて楽しかった。
- ・ボランティアのみなさんが思ったより深くかかわっていたのに驚き、興味を持ちました。
- ・人工呼吸、心臓マッサージがよかったです。



☆看護師など医療の仕事についてどう思いますか。

- ・人間関係にかかわる仕事だし、人の命を守るからその分大変な仕事だと思いました。
- ・責任はあるけれどその分やりがいがある仕事だと思いました。
- ・数ある職場の中でも特に人間として成長できる仕事だと思います。
- ・大変なことも多いと思うけどやりがいのある仕事だと思う。
- ・看護師の中でもいろいろな種類があってみんな忙しそうでしたが、患者さんがみんな嬉しそうな顔をしていたので患者さんを喜ばすことができる良い仕事だと思いました。





医療法人社団唱和会 明野中央病院

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097) 558-3211 FAX (097) 558-3709

E-mail : akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.coara.or.jp/~akenohp/>